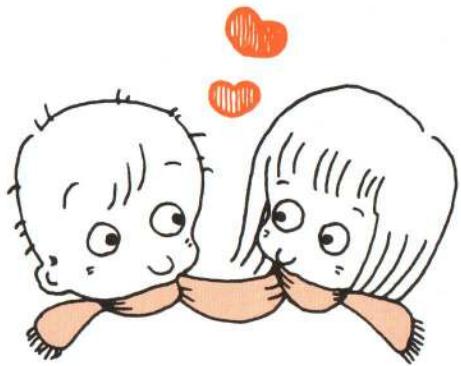


市民読書感想文コンクール

審査結果



地域と行政の橋渡し役 行政協力員大会

10月30日、大館市行政協力員大会が開催され、記念講演や永年勤続者の表彰などが行われました。そこで今回永年勤続表彰された行政協力員のかたがたをご紹介します。

城7年度 大館市行政協力員大会



行政協力員は、市が、各種書類の配布・取りまとめや、市民から市政への要望の取り次ぎなどをお願いしているかたがたで、十月三十日現在、二百八十二人に委嘱しています。中には二十年、三十年という長い間、行政と市民を結ぶ架け橋として活躍していただいているかたもいます。

- 30年勤続 (3人)
 - ・ 関 喜一さん (沢山)
 - ・ 佐藤秀明さん (鳴滝)
 - ・ 佐藤清助さん (出川)
- 20年勤続 (2人)
 - ・ 伊藤 進さん (高館下)
 - ・ 蛭川良逸さん (山田渡)
- 10年勤続 (5人)
 - ・ 畠山章さん (御成町2丁目)
 - ・ 柳沢トキ子さん (糸切内中台)
 - ・ 因幡正一さん (高村)
 - ・ 白川治郎さん (神山)
 - ・ 若狭一雄さん (中羽立)

ここ数年、独居老人対策が社会的な問題となっています。独居老人の数が日増しに増えていることもあり、当市でも真剣に取り組まなければならない課題の一つに数えられます。今年度から着手した秋田県北部老人福祉総合エリアの整備事業。これは県北全体を対象にしているとは言つても、今まで大館でやるたまでもできなかつた様々な福祉事業が、これを契機に実現できるようになるわけです。

例としてケア付き住宅等が挙げられます。ケア付き住宅というのは、独居老人や高齢者夫婦が、周辺の保健施設や介護体制を背景としてゆとりをもつて生活できるようにした住居のことです。今まで皆さんはケア付き住宅といったものは経験したことがないと思うのですが、エリアができることによってそのような積極的な試みが導入されることになるのです。

ケア付き住宅は、県北全体にとりあえず一力所しかできないものではありますが、そういう初めてのものをそこで実現してみせることにあって、大館以外の市町村への大変良い見本(ショーウィンドー効果)になるわけです。エリアというものは、それで福祉の需要すべてを賄えるものではないのですが、逆に言えば、各市町村が福祉施策に取り組む際の突破口になるものなのです。

また、高齢者の皆さんのが集まつて住むということによって、お互いにいたわり、助け合うといった連帯意識が生まれ、そこに一つの「地域社会」が成立することも、エリアの効果として期待されるものです。そのような中身(ソフト面)についての理解も、行政の役割であると考えていますので、今後ますます積極的に取り組んでいきたいと思います。

市長リポート

No. 102

老人福祉総合エリアが

果たす役割とは



第二十六回市民読書感想文コンクールへのご応募ありがとうございました。今回のコンクールには、一般の部・学生の部合わせて三十編の作品が寄せられ、審査の結果、次の六作品が優秀作に決まりました。

- 黄落を読んで 樋口 久美子さん(東台1区)
- 一般の部
- サイレント・コーリング 高橋 弥生さん (鳳鳴高校1年生)
- 「人間失格」を読んで 長崎 純子さん (商業高校3年生)

- 「黄落」を読み終えて今 畠山 智子さん(旭ヶ丘) (田代町2区)
- エイズに立ち向かう 一関 恵さん (商業高校2年生)
- 学生の部
- 「人間失格」を読んで 長崎 純子さん (鳳鳴高校1年生)

小 約 元